

成果の説明書

(氏名) 向井悠一郎	(学部) 経済学部
1 重要事項	
<p><研究></p> <p>向井悠一郎 (2020)「製品アーキテクチャの階層性に関するノート」『高崎経済大学論集』63 (1) pp139-154</p> <p>向井悠一郎 (2020)「すり合わせ要素の「カプセル」としての製品：今治造船の小型ばら積み船の事例」高崎経済大学経済学会ワーキングペーパー</p> <p>向井悠一郎 (2021)「日系自動車部品 2 次サプライヤーの中国華南における生産戦略：ヌカベ」『地方都市における中小製造業の存立基盤とグローバル展開：群馬県高崎市を中心とした事例研究 (仮)』高崎経済大学地域科学研究所 (4 章) (刊行予定)</p> <p>向井悠一郎 (2021)「日本の造船会社の製品アーキテクチャ戦略」東京大学博士学位論文</p> <p><教育></p> <ul style="list-style-type: none">講義：資料・課題提示+講義動画のオンデマンド配信によって講義を行った。前期開講当初は課題の内容などについて試行錯誤があったが、資料・講義動画・課題の提示のタイミング、内容のアレンジなどに関して受講生の声を踏まえて工夫したことにより、オンライン化にある程度対応できたと考える。ゼミ：座学のオンライン化、ハイブリッド化を試行した。工場見学などの FW は例年通りではないが、ご対応いただけた企業様に訪問することができた。	
2 その他の事項	
<ul style="list-style-type: none">学内の委員会	
3 次年度以降の計画・抱負	
<ul style="list-style-type: none">研究については、理論・事例の分野や時期の射程を広げること、アーキテクチャの概念に関する再検討 (特に用途特殊性と顧客特殊性の相違に注目する)、設計選択と企業の競争力の関係に関する議論の精緻化、操作化に取り組む。教育については、講義は新たな講義方法に対応する。ゼミは、コロナ禍による制約はあるが、FW など可能な限り多様な学習機会を確保する。	